

めでいかすどる
Médicastre



「日 光」

鶴岡地区医師会

20年 12月号

日時:平成 20 年 11 月 30 日(日)

場所: 庄内病院 3 階講堂

第 27 回庄内医師集談会

学術広報部 中 村 秀 幸

去る平成 20 年 11 月 30 日(日)に第 27 回の庄内医師集談会が庄内病院の 3 階講堂にて開催されました。参加者は、酒田と鶴岡合わせて 82 人でした。

そもそもは昭和 56 年より鶴岡では、竹田浩洋先生や鈴木伸男先生、奥村浩先生が発起人となり酒田との顔の見える関係を模索し、開業医の先生の身近な症例や庄内にまつわる演題などを気軽にざっくばらんにストーブを囲みながらの雰囲気が始まったとお聞きしております。

酒田と鶴岡の持ち回りの開催ですが、今年は鶴岡が当番です。幹事会を開催し私が代表幹事となりました。演題の募集やプログラムの作成などを行いました。三科武先生の提案で、タイムリーな話題として、新型インフルエンザの医師会の対応について、意識の向上や危機管理に対する組織の取り組みの一助にと、「庄内地域における新型インフルエンザの対策と対応パネル」を企画しました。

一般演題は 16 題で、5 つのセクションに分けて発表をしていただきました。毎回、科や内容が異なる演題がひとつのセクションとなり、演者や座長の先生に申し分けない思いがありますが、これは集談会ならではのことでご容赦ください。

前半の一般演題では、酒田地区医師会の日本海総合病院への小児科医の夜間診療への協力(こども医院さいとう、齋藤慶一先生)、に対してフロアから多数の感動と励ましのエールがありました。小児科医の献身的な応援に脱帽です。

庄内地区における過去 5 年間の大腿骨近位部骨折の発生状況(庄内整形外科医会 上野欣一先生)では、基幹病院へのアンケートの結果から最近急増する骨折のプロフィールが浮かびあがりました。市立庄内病院における死亡症例の分析



(診療部 松原要一先生)は、現在進行中の緩和ケア-庄内プロジェクトの背景を探る貴重な資料と思います。竹中先生の発表されたホメオパシー(自然治癒力)も古くて新しい治療体系で魅力的でした。

後半は、パネルディスカッション「新型インフルエンザ その対策と対応」として、岡田恒人先生には鶴岡地区の庄内病院と医師会の立場からの感染対策を、会員へのアンケートを紹介し発表していただきました。まだまだ新型インフルエンザの定義を誤解している方も多いのには驚きましたし、これからどんどんこのような研修会が必要なのでしょう。庄内保健所長の松田徹先生には「庄内地区の対策マニュアル」と題して、前任の中村所長時代からのマニュアルを拝見しました。今後、最新のバージョンに改定されていく予定とお聞きしております。医師会とパイプを太くし情報の共有が必要でしょう。日本海総合病院の齋藤宗一先生には、庄内地区の基幹病院としての「日本海総合病院としての対応」につき発表をいただきました。

その後のフロアからの質疑応答を通して、最新のマニュアルの入手、正確な情報をいかに確実に会員に伝達をしていくか、各レベルに応じた対策



や対応の確認（例えばフェーズ4では医療機関の入り口にポスターの張り出しや電話での対応の徹底など）をこれからも勉強会を通じて医療者の知識レベルを上げていく努力が必要であることを痛感しました。

最後に、東北大学大学院医学系研究科微生物学分野の押谷仁教授より「新型インフルエンザ対策について」と題して1時間余りの講演がありました。



基礎的なウイルス学や過去のパンデミック、現在の感染の状況、これから確実に遭遇するであろうパンデミックのフェーズ毎の対応、手洗いうがい、咳エチケット、ワクチンや抗ウイルス薬など多岐にわたる詳細かつ明瞭なお話に時間の経つのも忘れてしまいました。

基幹病院である荘内病院と医師会（薬剤師会との協力も必要）は正確な情報を共有しあい、保健所、学校や警察や消防など行政との連携しあい、いたずらにパニックに陥ることなく協力してい

く必要を感じました。今後、多くの会議や研修の機会を作り、周到なる準備態勢をみなさんで作り上げていきましょう。

最後に、鶴岡の幹事の諸先生方、ならびに設営や運営の事務的な裏方となったみなさんに、成功裡におわりましたこと感謝いたします。

庄内プロジェクト：各種マテリアルの紹介

庄内病院サポートセンター

MSW 長谷川 伸

1. はじめに

日頃、医師会の皆様方には大変お世話になっております。

庄内プロジェクトの関連で、当院の地域医療連携室内に「緩和ケアサポートセンター」が併設されて半年が経過いたしました。この間、皆様方には多大なご指導をいただきまして、ありがたく感謝を申し上げたいと思います。又、退院・支援調整カンファレンスでは、お忙しいところ地域の主治医としておいでいただき、いつも勉強させていただいております。

さて、厚労省研究事業の「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」では、各地域に緩和ケア普及のための各種マテリアルの提供をしております。そこで、この紙面をお借りしまして、ご紹介させていただきたいと存じます。

2. 医療者向けマテリアル

はじめに、地域医療者の知識・技術を向上させるためのマテリアルを紹介いたします。

① ステップ緩和ケア

実際ががん患者さんの緩和ケアを行う医療者がすぐにつかえることを目的として作成されたものです。症状、FAQ (frequently asked question: よくある質問)、評価、治療、ケアのポイント、治療目的とコンサルテーションなどの各項目が症状ごとに簡潔にまとめられた冊子です。

② 「ステップ緩和ケア」付録

「ステップ緩和ケア」にもとづく各種のツールや資料を掲載されたものです。症状などの評価用のツールや地域連携のためのツール、患者さん・家族用パンフレット、薬剤一覧などが掲載されております。尚、これは冊子ではありますが、患者

さん・家族用パンフレットは症状ごとに切り離されたパンフレットと「これからの過ごし方について」、「わたしのカルテ」なども用意されております。

③ ステップ緩和ケアムービーVol. 1 (DVD)

上記の「ステップ緩和ケア」について映像化したものです。分かりやすくスキルアップには役立つものとして編集されております。

3. 地域住民向けの啓発マテリアル

① ポスター

不特定の地域住民を対象として、緩和ケアについて紹介することを目的とするものです。内容は、リーフレットと同じような情報が掲載されております。当地域では203ヶ所に掲示していただいております。

② リーフレット (つらい時期を上手に過ごす)

三つ折りのもので、緩和ケアへの注意喚起、緩和ケアに関する基本的な情報、相談支援センターの連絡先、厚労省研究班ウェブサイトの情報などが掲載されております。

③ 冊子 (あなたの地域の緩和ケア)

ポスター・リーフレットと一緒に配布しております。緩和ケアに関心のある人を対象に作られております。20ページの冊子です。内容は、緩和ケアの説明、ケアチームの紹介、医療用麻薬の説明、心の緩和ケア相談窓口などが掲載されております。

尚、ポスター、リーフレット、冊子は、一緒に地域203ヶ所に配布しております。

④ DVD (我が家に帰ろう！)

地域住民・患者さん向けに作られたDVDです。ドラマとして脚本化かされており、入院から退院までのプロセスを退院支援・調整プログラムにそ

って編集されております。又、専門家からのメッセージも同時に編集されております。当院では、外来ホールで毎日放映しております。実は、ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、庄内プロジェクトのメンバーも出演しております。尚、同じ内容でVHS版も用意しております。

⑤ 緩和ケアを知るための100冊(図書)

緩和ケアに関心のある地域住民を対象として、幅広い情報を提供するために100冊の厳選された図書を配置しております。配置場所は、鶴岡地区医師会健康管理センター・がん情報センター「からだ館」・鶴岡協立病院・庄内病院の4ヶ所となっております。庄内病院では、外来ホールでDVD上映場所に感想ノートと共に配置してお

ります。

4. おわりに

当サポートセンターでは、貴医師会と一緒に上記マテリアルの管理をさせていただいております。これに関するご意見などございましたらメールなどにてご連絡願います。

先日、第2回目の市民公開講座のお手伝いをさせていただきました。大変に盛会で緩和ケアに対する地域住民の関心の深さを感じられました。サポートセンターといたしましては、こころを引き締めて皆様や地域住民のためにお手伝いをさせていただきたく気持ちでおります。今後ともよろしくご指導願います。



日時:平成 20 年 11 月 15 日(土)

場所:マリカ市民ホール

第2回市民公開講座開催される

荘内病院サポートセンター

MSW 長谷川 伸

去る11月15日(土曜日)午後2時より5時までの3時間にわたり庄内プロジェクト主催による第2回市民公開講座が、マリカ市民ホールにて開催されました。テーマとプログラムは下記の内容でした。

テーマ : 地域で支えるがん緩和ケア ～あなたらしく生きるために～

プログラム

- 第1部 ① ビデオメッセージ「庄内地域の医療と緩和ケア」
国立がんセンター 名誉総長 杉村 隆 先生
- ② 講演「がん医療と緩和ケア」
国立がんセンター中央病院 院長 土屋 了介 先生
- ③ 講演「よく生きる - 緩和医療の原点-」
俳優 石坂 浩二 氏
- 第2部 ④ 緩和ケア クイズ
プレゼンター 慶応義塾大学専任講師 秋山 美紀 先生
解説 国立がんセンター中央病院 的場 元弘 先生
- ⑤ パネルディスカッション
「住み慣れた自宅へ -あなたらしく生きるために-」
座長 鶴岡地区医師会 会長 中目 千之 先生
パネリスト 庄内保健所 所長 松田 徹 先生
荘内病院外科主任医長 鈴木 聡 先生
岡田医院 理事長 岡田 恒人 先生
荘内病院 看護師 富樫 清 氏
ハローナース 看護師 本間 幸井 氏

事前に整理券を発行しておりましたが、参加者は、市民の方が319名、講師・スタッフ24名、あわせて343名となりました。当日は、アンケートを配布しまして、319名中207名の方から回答をいただくことが出来ました。

中目先生はじめ貴医師会の方々と研究班の先生方のご指導とご支援のもと、当荘内病院も一体となって盛會に終えることができました。

尚、このような市民公開講座は継続して開催することを予定しております。引き続き、皆様にはご指導とご支援をお願いして、報告とさせていただきます。



外部評価委員会

庶務課 佐藤 渚

今年度の本委員会では、コスト管理に関わるものという会長の意向により、昨年末に発足したコスト管理委員会において検討を重ねてきました。

その検討の中で、経済産業省の外郭団体である財団法人省エネルギーセンターという組織の存在を知り、センターが事業として行なっているビル（施設）の省エネルギー診断を受診し、結果報告を兼ねて今後の提言を受けてはどうかという計画を立てました。

診断を受ける施設は、健康管理センター、湯田川温泉リハビリテーション病院、みずばしょうの3施設とし、8月に各々診断を受けました。そして、各施設において結果説明会を実施し、総括として本委員会を開催しました。

講師は、診断にもお越しいただいたエネルギー使用合理化専門員の栗田晃一様で、「診断事業結果に基づいた病院施設に於ける現状・課題」と題し、改善事例などを提示していただきながらお話いただきました。

詳しい内容については割愛させていただきますが、今後の運営に大きく役立つものであったと思います。また、会員の皆様、特に病院施設においては診断を受けてみてはいかがでしょうか。

最後に、例として健康管理センターの診断結果を提示します。なお、投資のかからない項目が多いことから、取り組みやすい改善事項の指摘をしていただけることがお分かりいただけるかと思えます。

荘内地区健康管理センター診断の結果

年間削減金額計 1,051 千円

エネルギー	現状（千円）	年間削減額（千円）	削減率（%）
電 力	7,939	361	4.5
燃料・熱	2,470	172	7.0
用 水	4,604	518	11.3
合 計	15,013	1,051	7.0

No.	改 善 事 項	削 減 効 果 (予 測)					投 資	
		エネルギー 一種類等	省エネルギー量 数値 単位	金額 千円/年	原油量 kJ/年	CO2量 t-CO2/年	投資額 千円	回収年 年
1	冷温水発生機の負荷率向上	灯油	2,299 L	172	2.2	5.7		
2	除湿機の電源遮断	電力量	4,415 kWh	74	1.1	1.9		
3	手洗い水栓も吐水量の適正化	用水	955 m ³	518	0.0	0.0		
4	変圧器の統合	電力量	1,460 kWh	24	0.4	0.6	50	2.1
5	デマンド制御の導入	電力	10 kW	231	—	—		
6	省エネ管球の採用	電力量	1,139 kWh	19	0.3	0.5		
7	自販機蛍光灯の間引き	電力量	788 kWh	13	0.2	0.3		

故 桜 井 晋 先生のご冥福をお祈り申し上げます。

平成 20 年 11 月 30 日死亡 享年 78 歳



弔 辞

鶴岡地区医師会を代表し、謹んで 故桜井 晋先生のご霊前に弔辞を捧げ、深く哀悼の意を表します。

先生は、さる 30 日午後 7 時 15 分に忽然と永眠されたという悲報をお聞きし、しばらくは困惑の情をいただきながら深い悲しみに沈みました。それは、あまりにも突然なことであり、さる本年の三月には、先生は、喜寿を迎えられたということで、会員一同お祝いを申し上げ、元気なお姿を拝見したばかりでしたので、誠に驚がくの至りでした。

私どもは優れた先達を失ったばかりか、当地域医療界にとりまして悲しみは大きく、またご家族・ご親戚の方々におかれましても、痛惜の念はいかばかりかとお推察いたします。

医師会員、職員一同心からご冥福をお祈り申し上げます。

顧みますと先生は、昭和 32 年に昭和医科大学をご卒業されると、その翌年から同大学病院の耳鼻咽喉科に入局され、さらに内科に転局され、通算 3 年間の勤務を終えてから、大山にお戻りになられ、昭和 36 年に桜井診療所を開業されました。

以来、今日までに 47 年間を開業医として地域医療に貢献されました。

また、鶴岡地区医師会においては昭和 62 年から理事 7 年間、山形県医師国保組合及び共済会においては理事 14 年間、並びに監事 8 年間にわたって要職の大役を果たされました。

そのほか、大山地域を中心として小中学校の学校医を 36 年間、あるいは特別養護老人ホームなどの嘱託医をお引き受けいただき、地域医療の発展と充実のため貢献していただきました。

このように先生が長い期間にわたり、ご活躍されてこられたのも、ひとえに、先生の医師会に対する厚い情熱と志が賜物となり、また、先生の温厚、かつ、篤実・高潔なお人柄が反映され、数々の業績につながったものと思います。

特に、先生からは山形県医師国保組合及び共済会の役員を長い期間にわたってお引き受けいただき、組合の運営に真摯に取り組んでいただいたばかりか、山形市まで往來の不便な交通事情の中で、さぞかしご苦勞も多々あったかと思いますが、小言ひとつも語ることなく大任を果たしていた

できました。

先生の信念、信望をもって成し遂げられた、数々のご功績につきまして、ここに改めて心から感謝と敬意を表します。

また、先生は写真がお好きで、出かけるときはいつも愛用のカメラを携えておりました。医師会の写真クラブの会員として、毎年春秋の2回行っている医師会の写真展には必ず作品を出品していただき、健康管理センター和室での展示を皮切りに、その後、湯田川温泉リハビリテーション病院、老健施設みずばしょうなどに巡回して展示され、受診者や入所者の目を楽しませていただきました。ほんとうにありがとうございました。

先生からご指導受けながら、医師会活動を共にしてきた私どもは、この医療界の苦難な時代に、先生を失うことは誠に残念でありませんが、先生

がこれまで当医師会や地域医療に尽くされてきた業績は、私どもは受け継いで守っていくべきものと思います。

先生、どうぞ私どもを、これまで以上に見守ってください。

最後に、本日のお別れに際し、先生のご逝去を悼み、また、生前のご功績とご遺徳を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉とします。

どうぞ、先生、安らかにお眠りください。

平成20年12月5日

鶴岡地区医師会

会長 中目 千之

YBC ラジオ「朝だ！元気だ！6時半！！」収録体験記

おの こども診療所 小野 俊 孝

「まさか、ラジオから自分の声が流れることになろうとは。」

収録日、一人行かせるには車の運転が心配との理由で妻と娘が同行した。籠にコーヒーポットやキャンデーなどを詰め、ピクニック気分ようだ。当事者が収録中の2-3時間はどこに行こうか、ショッピングしようか、いかにも楽しそうな話をしている。まあ、ゆっくりできるので運転は任せることにした。

久しぶりの月山越えから山形市へ。

祭日に収録をお願いしたので診療に支障はなかったが、せっかくの放送局も祭日であった。裏口から守衛さんをお願いして入れていただき、ディレクター、アナウンサーと3人閑散とした小部屋での収録であった。アナウンサーがアナウス部長という重鎮の男性であり、期待していた華やかさはなく残念であったが、妙に落ち着いて話げできた。

本題の収録はさておき、後半の「人となり」の話を盛り上げようと過去の笑い話を用意したのだが、家族での予行演習では評判は良くなかった。実際の場面では、アナウンサーがプロの腕を見せて巧みに話をあわせ、盛り上げてくれた。また、ディレクターもほめ言葉が多く、気持ちよく収録は進んだ。

しかし、実際には話の要領が悪く、冗長で、時間超過が多かった。ついには、2日目のお気に入りの曲は省かれてしまった。実に、省かれた曲は「モーツアルト」の曲であった。精一杯、品位を高める筈だったのに残念である。

最後に、今回の経験で良かったことは、過去にさかのぼって曲を選べたこと。いろんな情景が思い出されて、一人楽しんだ。

嫌だったことは、後日ラジオから流れる自分の声を聞くことであった。しかし、聞かないで済ませる勇氣もなかった。

渡部泌尿器科内科医院 渡部 隆 二

収録日は10月4日。

この日は奇しくも私たちの10年目の結婚記念日でもあった。帰りは山形で美味しいものでも食べてこようか、などと話しながら妻+子供3人と収録に出掛けた。

初めてのスタジオに子供たちは興奮気味。ヘッドホンをつけてみたり、写真を撮ったりと、はしゃいでいる(スタジオまで子供を連れてきた人は初めてと言われた)。一方、私は緊張でガチガチ。専門の分野の話は、あらかじめシナリオを作っておいたので、まずまずスムーズに進んだが、問題は後半の3分間ほどのフリートーク。別に何の話をしてもらいたいのだが、あいにく、これといった面白ネタも持ち合わせておらず。ディレクターの方は「くだけた話でいいですよ。愛読書とか座右の銘とか尊敬する人とか。」しかし、日頃ろくに本も読まず、気の利いた言葉など知らない私。(どこがくだけてるんだー)と思いながら、もうしどろもどろで異様に長く感じる3分間であった。約2時間半かけて、なんとか5日分収録完了。その日は終わった開放感よりも後味の悪い疲れと反省ばかりが頭をよぎり、なんとなく気持ちよく酔えない記念日であった。



地域医療連携部門紹介

山形県立鶴岡病院

医療福祉相談係 小西道子

早いものでもう1年の終わり、心せわしい時期となりました。本格的な雪景色も間もないことでしょう。鶴岡地区医師会の皆様には日ごろ当院の精神科医療について、深いご理解とご指導、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、当院の地域医療連携実施要領が制定されたのは平成18年9月と日が浅く、まだまだ手探り状態で「庄内地域医療連携の会」の諸先輩に学びながらようやく歩み始めたというのが実情です。

当院の地域医療連携担当は、診療部長、外来看護師、医療福祉相談係ですが、全員兼務で業務に当たっています。診療依頼や、入院中の患者さんの他科受診、退院の促進など、地域の保健・医療・福祉施設と連携を図り、心の病を持つ人々がスムーズに受療できるよう支援しています。後述のように新病院の開設が予定されていますが、その時にはもっと充実した地域医療連携体制を目指しております。

当院は昭和27年12月15日「山形県立療養所 金峯園」として開設されました。その後、昭和39年4月1日に「山形県立鶴岡病院」と改称されましたが、県内で唯一の公立精神科単科病院としてこれまで56年間、県内の精神医療、また庄内・最上地区の精神医療の中核としての機能を果たすため努力してきました。

精神衛生法から現在の精神保健福祉法に法改正を重ねるにつれ、入院医療中心の治療から、生活者としての精神障がい者が地域で生活するために必要な支援をすることが重要視されるようになりました。そのため、入院中からの作業療法

や退院準備プログラム（少人数での実践体験学習）に引き続き、退院後のデイケア（グループ活動を中心に社会適応能力の向上を図る）、看護師や精神保健福祉士・作業療法士による訪問看護（日常生活や服薬指導、本人や家族からの相談）、外来作業療法（家事・就労に必要な基礎体力の維持、仲間作りの場の提供）等の支援体制を整えてきました。今後さらに地域活動支援センターや就労継続支援（小規模作業所）、グループホーム、居宅介護（ホームヘルパー）等の社会福祉資源と互いに協力しながら、適切な医療が必要時にすぐ提供できるよう心がけてまいります。

平成24年度には多様化する時代の要請に十分応えられるよう新病院を開院します。交通の便を考え市内茅原草見鶴地区に移転し、誰もが気軽に利用できる地域に開かれた病院、人権やプライバシーに配慮しながら開放的な病院を…と考えています。また精神科救急病棟や医療観察法病棟、子どもの心の病、うつ病等ストレスに関連した病気にも幅広く対応していく予定ですので、いっそうのご支援がいただけますようよろしくお願いいたします。

なお移転しても緑ゆたかで心安らぐ病院に、さらには地域に愛される病院になるはずです。



表 紙

「日 光」

上 野 欣 一

日光いろは坂での5時間近い大渋滞を乗り越えて、明智光秀由来といわれる明智平の展望台から、紅葉間近かの華厳の滝と中禅寺湖を初めて目の当たりにしました。右手の男体山とともに、調和のとれた日本の自然美に改めて感激しました。

～ 編 集 後 記 ～

福原 晶子

平年より早めの降雪があった11月ですが、いよいよ今年も、あと1か月を残すばかりになりました。インフルエンザの報告も、少しずつ見られるようになって来ました。

今月号は創刊から200号になります。単純計算しても、16年間以上、毎月、皆様のお手元に届いているということになります。「継続は力なり」と言いますが、医師会広報誌として、対外・対内的に医師会活動の情報をお伝えし、また、時には、会員の個人的な人となりを見ることができたりで、その意義は大変大きいと思います。結構、いろいろな所で読まれているようで、楽しみにしておられる方も多いようです。今後も、皆様に愛され、有益な紙面の構成を心がけたいと思います。

皆様の投稿やご意見も、是非お待ちしております。

今年は、4月の診療報酬改定による外来管理加算の5分間ルールや、後期高齢者医療制度の導入に加え、特定健診が開始されたことで、医療を取り巻く状況は、かなり厳しいものになってます。眼科医である私の立場で言うと、特定健診により受診者の減少、あるいは眼底写真撮影を施行しない例が増え、早期発見が重要な緑内障の症例が見つかりにくくなるのでは、と危惧しています。

社会保障費の歳出カットは限界に来ている、という意見が国会議員からも出始め、医療費2200億円削減については今後見直される可能性もあるようです。今後、どのようなか先行きは不透明ですが、限られた財源・少ないマンパワーを有効に使い、より良い医療を提供していかなければなりません。

編集委員：中村秀幸・伊藤末志・福原晶子・斎藤憲康・小野俊孝・渡部隆二

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町27-1 TEL 22-0936(代)